

玉川学校適正配置に関するアンケート（教職員対象）
結果報告

資料 3

一、アンケートの概要

1. 回答人数

鴨部小学校教職員	10名/10名中	回答率100%
九和小学校教職員	17名/15名中	回答率113%※教員＋支援員
玉川中学校教職員	12名/15名中	回答率80%

2. 実施期間

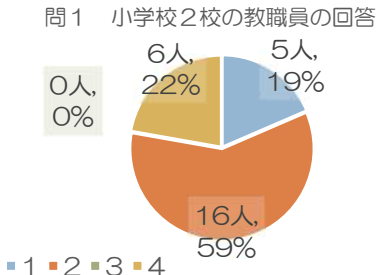
令和8年6月22日（月）～令和8年6月26日（金）

二、設問ごとの回答について

問1 小学校同士の学校統合は必要だと思いますか。 ※小学校教職員対象

項目	回答人数
1.必要だと思う	5
2.やむをえないと思う	16
3.必要ないと思う	0
4.無回答	6

※教職員にとって回答が難しい設問のため、
必須回答ではなくしています。



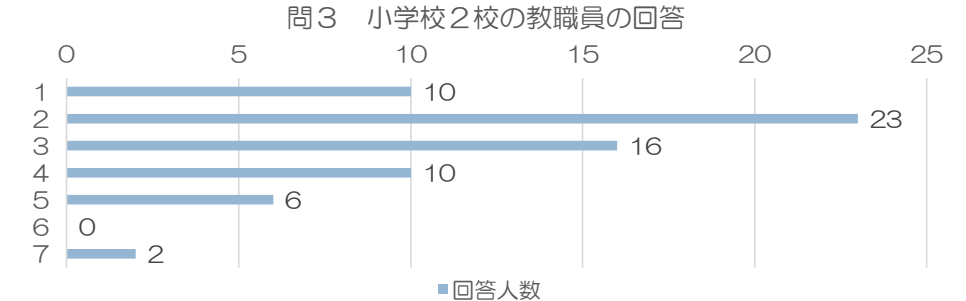
問2 問1でそう回答した理由を教えてください。（自由記述）

カテゴリ	内容
統合は必要と回答した理由	・児童数、教職員数ともに減少しており、統合した方が多くの目で児童の教育に携わることができると思うから。 ・複式学級の解消（2件） ・人数が少ないと、話し合いで活発な意見交換ができにくい。人間関係が固定化されてしまう。
統合はやむをえないと回答した理由	・全校人数が少ないから。 ・児童数が減少し、複式学級となる学年もあるため。 ・統合をせず、数年後に複式学級が2つできると、教員数も減るので、今と同じレベルで教育活動を行うのが難しいと思う。 ・複式学級解消につながるから。各学年で学習できるのがよいと考えるから。 ・人数がどんどん減っているから。人数が多いと活動も充実し、人数が多いから体験できることもある。 ・現在、高学年の担任をしているが、少人数だと委員会や係の仕事の負担が多い。数年後の児童数予測を見ると、現状より少なくなることが予測されるので、統合はやむを得ないと思う。 ・児童数も年々減っていき、自校だけでは運営が難しくなるため。 ・両校の生徒の人数を考えた場合、やむを得ないと思う。 ・統合していない現在の状態は、児童一人一人に対して個別に関わる時間が作りやすいメリットがある。しかし、学校施設の維持や人員配置の費用対効果から、統合の方向に進むのはやむを得ないと思われる。 ・少人数の良さもあるが、少なすぎると、教育的効果が薄まるから。 ・子供の人数が減っている。 ・クラスにはある程度の人数を確保したいから。 ・児童数が少なくなり、同学年の児童がいなくなってしまうため。

問3 小学校が統合された場合、【子どもたちにとって】どのようなことを期待しますか。
最も重視するものを3つ選択してください。 ※小学校教職員対象

項目	回答人数
1.小規模校としての良さが維持される。（きめ細かな指導を受けられるなど）	10
2.複式学級が解消される。	23
3.集団行動、行事の充実など、既存校ではできなかった活動ができる。	16
4.地域の教育資源を活用した特色ある体験学習が充実される。	10
5.中学校との連携強化による教育が受けられる。（専科教員による訪問授業など）	6
6.学校統合による子どもたちにとっての効果は期待できない。	0
7.その他	2

その他の意見：・いろんなタイプの友達が増えて、精神的に充実してほしい。
集団によるよい作用(頑張りたくなる、楽しくなる等)を期待している。
・児童同士による話し合いや委員会活動の充実など。互いに切磋琢磨し合える。



問4 小学校が統合された場合、【教職員にとって】どのようなことを期待しますか。
（自由記述）[例：校務負担の平準化、複数教員による指導ができる、など]
※小学校教員対象

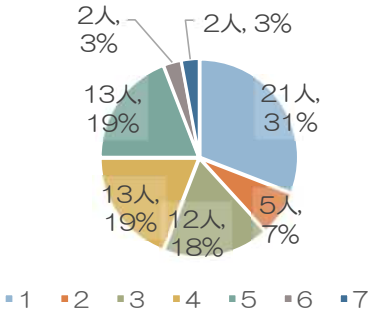
カテゴリ	内容
鴨部小学校	・教員数の増加による、教職員一人あたりの校務負担の軽減（6件） ・複式学級解消による担任負担の平準化 ・専科教員の配置等、人員の増加 ・複数教員によるきめ細かな指導ができる。（3件） ・担任は、専科の時間に他の校務や授業の準備などができる ・授業の質の向上 ・児童と向き合う時間の増加
九和小学校	・校務負担の軽減/業務の分担（4件） ・多種多様な行事の運営ができる。 ・教職員数不足の解消/人員配置の強化（2件） ・指導体制の充実化/複数教員による指導（4件） ・多様な教育実践 ・学び合いのできる授業づくり/授業の活性化（2件） ・行事や学習活動、学校文化の見直し ・地域行事や地域組織の見直し ・予算が2校一緒になるので、備品購入が可能になる。 ・複式学級を避けることができる。 ・学習内容や教材などの選択肢が増える。

問5 小学校の統合前後に、教職員にとって、どのような配慮やサポートがあれば、よりよい教育を子どもたちに提供できると思いますか。（複数回答可）※小学校教職員対象

項目	回答人数
1.校舎の整備・修繕	21
2.子どものこころのケアを支えるスクールカウンセラーや相談員の配置	5
3.統合後の学習指導を支える学習アシスタントの配置	12
4.統合対象校同士の交流事業を支える統合コーディネーターの配置（学校間の連絡や交流イベント立案など）	13
5.地域との関係を再構築し、地域産業との連携や、地域人材による講演会などを立案・設定し、児童生徒に特色ある学習を提供する地域コーディネーターの配置	13
6.ICTを活用した教育方法の指導・研修	2
7.その他	2

- その他の意見：・教員の人数を増やす。
理由は、普段の仕事に加えて、廃校から統合後は、作業が格段に増えるため。
- ・事務員の配置
 - ・引っ越し作業を教職員がするのではなく、きちんと業者を手配すること。物を運んだり破棄したりすることを、教員以外でできるようにしてほしい。
 - ・統合に向けての記念誌制作や諸事務をする職員の加配置

問5 小学校2校の教職員の回答



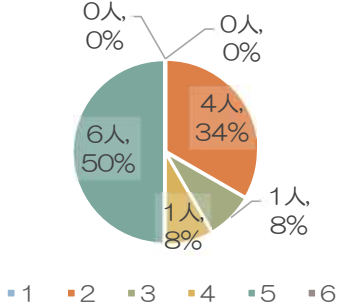
問6 今後10年間の児童生徒数の見通しを踏まえ、現在の形（近隣のどの学校とも統合しないまま）で中学校の教育活動を維持していくことについて、どのようにお考えですか。

※中学校教職員対象

項目	回答人数
1.10年後も維持できる	0
2.工夫すれば10年後も維持できる	4
3.現状のままでは困難(小学校との小中一貫化が必要)	1
4.現状のままでは困難(近隣の中学校同士で統合が必要)	1
5.どちらとも言えない	6
6.無回答	0

※教職員にとって回答が難しい設問のため、必須回答ではなくしています。

問6 玉川中学校教職員の回答



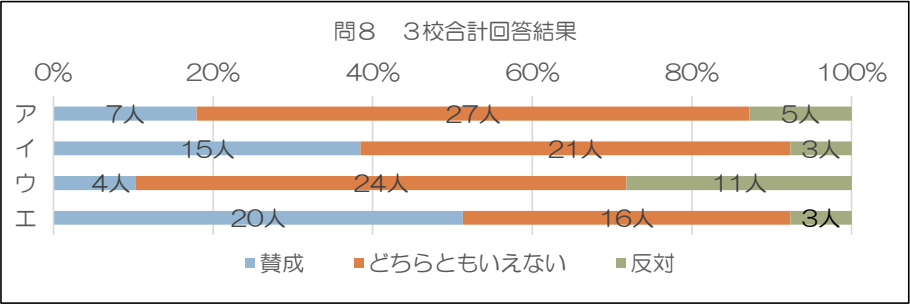
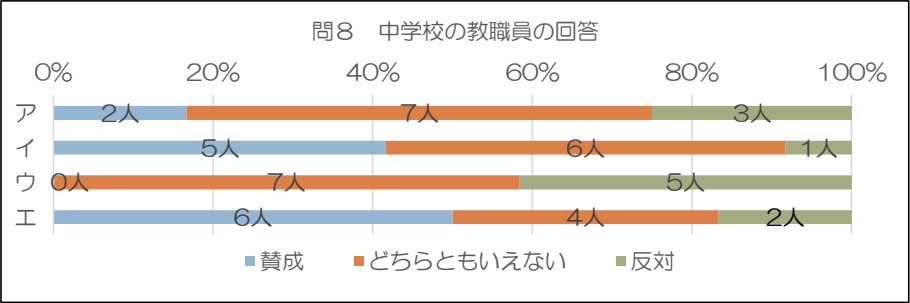
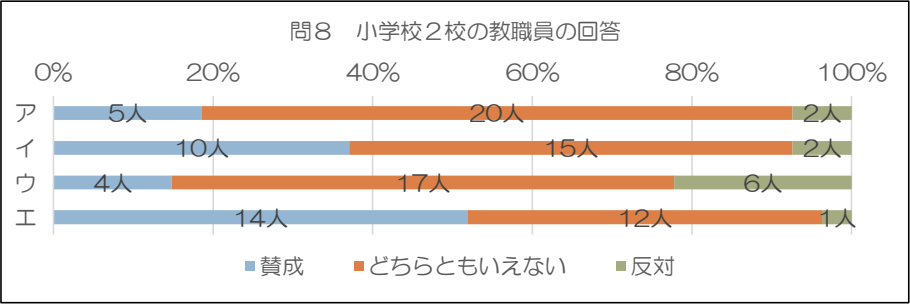
問7 問6でそう回答した理由を教えてください。「工夫すれば10年後も維持できる」と回答した方は、どのような工夫が考えられるかも併せて教えてください。（自由記述）

カテゴリ	内容
2.工夫すれば10年後も維持できる	・予算的に厳しい状況は理解できるが、地域に支えられている環境があり、人材の確保など工夫の余地がある。 ・地域の行事と学校行事を一体化させて、地域住民との交流を図りながら維持していく。 ・少数になると部活動等で影響が出るが、探究や産業、英語学習などの研究校として学校の魅力を向上すれば、逆に玉川小中に入学する場合もある。玉川でしかできない魅力化を図れば糸口が見えるのではないと思う。 ・学年対抗の学校行事の運営は難しくなるが、それ以外の活動は人数の多寡に関わらず、十分に教育的効果を期待できる。例えば、運動会では学年種目を無くし全校種目のみの実施にする、部活動は地域展開を進め、特色かつ魅力ある練習環境を整え、他地域から参加する選手を呼びこむ等が。授業は、体育や音楽で難しさがある一方、他の教科については少人数の良さを生かした手厚い支援が期待できると考える。
3.現状のままでは困難(小学校との小中一貫化が必要)	
4.現状のままでは困難(近隣の中学校同士で統合が必要)	
5.どちらとも言えない	・全校生徒数は減少しているものの、各学年の人数が減少傾向にあるとは現段階では言い切れないため、現在の形で維持するのが良いのか、一貫化や統合を図ることが良いのか、現状ではどちらとも判断しにくいと考えるため。

問8 小学校と中学校の連携や小中一貫教育についてどう考えますか。
※小学校・中学校 両教職員対象

ここでは次のようにお考えください。
小中一貫教育……学校運営が小中学校で一体化し、カリキュラム段階からの連携を可能とすること。
小中連携教育……学校運営は小中学校で独立したまま、学校行事や中学校教員による小学校での専科授業などの形で連携し、集団活動や教育の系統性を高めること。

項目
ア. 中学校校舎で小学校2校と中学校1校が統合し（施設一体型）、小中一貫教育に
イ. 中学校校舎で小学校2校と中学校1校が統合し（施設一体型）、小中連携教育に
ウ. 小学校校舎で小学校2校が統合し、小学校と中学校が別々の場所（施設分離型）で小中一貫教育をすることに
エ. 小学校校舎で小学校2校が統合し、小学校と中学校が別々の場所（施設分離型）で小中連携教育をすることに

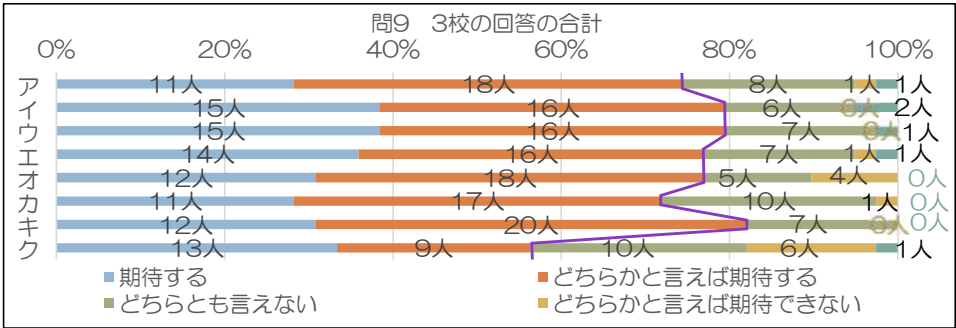
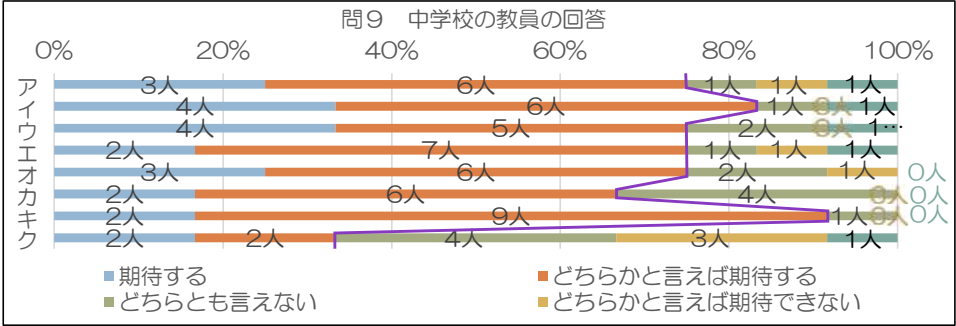
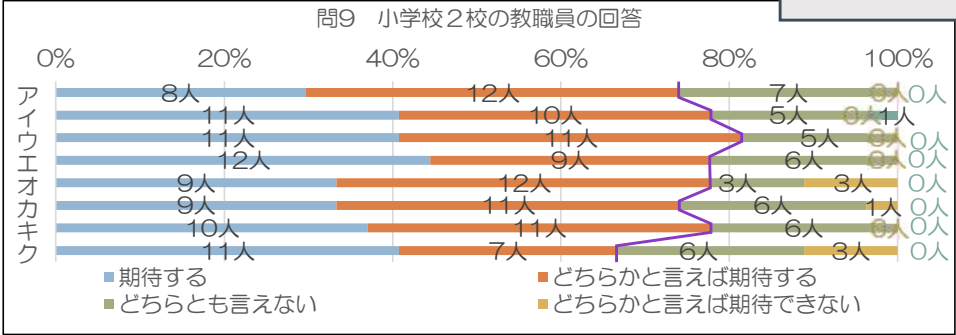


問9 小学校と中学校が同一校舎内にあることで、以下のことを期待しますか。 ※小学校・中学校 両教職員対象

ここでは、小中一貫教育・小中連携教育のどちらであるかを問わず、小中学校が同一校舎の場合を想定してお答えください。

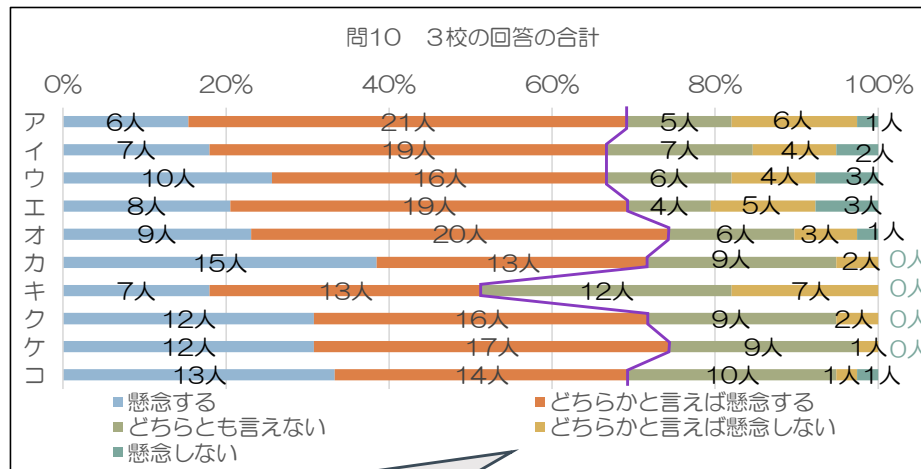
項目
ア. 小学生が中学校に進学するときの不安や負担感が軽減される。（中一ギャップの解消）
イ. 小中連携が推進され、小学校と中学校の合同行事などが行いやすくなる。
ウ. 小中の教員間で情報共有が行われ、9年間を通した切れ目のない指導ができる。（つまりしている教科の対応や個人の特性の把握など）
エ. 9年間で一貫した指導ができ、系統的な学習や生徒指導がしやすくなる。
オ. 中学校教員が小学校で専科授業を行うなど、学力保障に効果がある。
カ. 小学生が中学生としての生活を想像しやすく、中学生にあこがれを持って成長できる。
キ. 中学生の小学生を思いやる気持ちthatが育つ。
ク. 特別教室や体育施設などを共用することで、設備の有効活用ができる。

期待が低い



問10 小学校と中学校が同一校舎内にあることで、以下のことを懸念しますか。 ※小学校・中学校 両教職員対象
 ここでは、小中一貫教育・小中連携教育のどちらであるかを問わず、小中学校が同一校舎の場合を想定してお答えください。

項目
ア. 人間関係が固定化され、人間関係のトラブルに対応しにくくなる。
イ. 小学校卒業という節目の実感が薄くなりやすい。
ウ. 小学校高学年で学校行事の中心を担う経験や、中学校入学時に新しい集団でリーダーシップを発揮する機会が減る。
エ. 9年間、同じ校舎で環境変化がなく、刺激がない。
オ. 年齢差による影響への配慮が必要（思春期の中学生の言動や振る舞いが、低学年の小学生には刺激が強すぎる・悪影響になりうる）
カ. 特別教室など共用施設の使用時間が制限され、時間割に工夫が必要になる。
キ. 小中の授業時間の違いやカリキュラムの違いにより、互いの学習に影響する。
ク. テスト期間や受験期の中学生などに配慮が必要になる。
ケ. 小中連携事業の調整などに時間をとられ、教職員にとっての負担となる
コ. 小中の教員文化・勤務形態の違いをすり合わせる必要がある

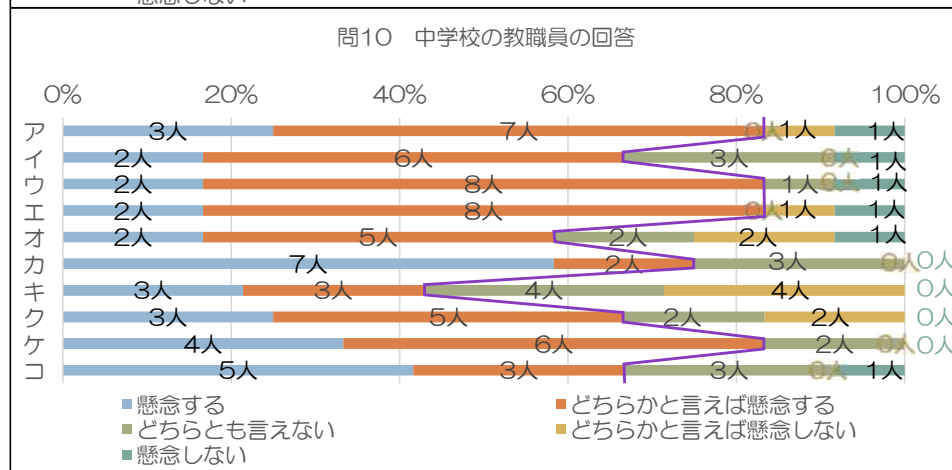
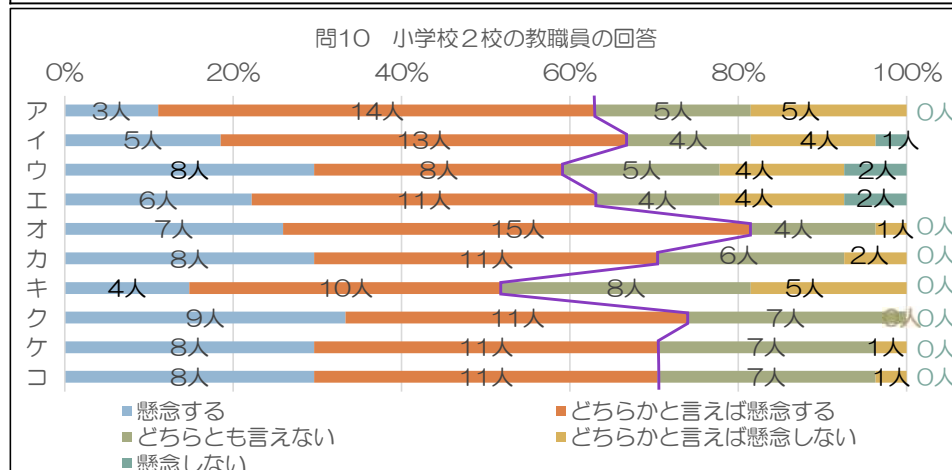


学校運営上の負担感は、小学校、中学校の教員に共通している。

キ. 小中の授業時間の違いやカリキュラムの違いによる互いの学習への影響は、小中ともに懸念の割合が低く、また、どちらとも言えないの割合が比較的高い。授業時間の調整によりある程度は対応が可能なことや、具体的に計画が定まらない限り判断がつかない点が関係するとみられる。

オ、ク、カ、ケ、コが、他項目に比べて懸念する割合が多い。
 特に、オは、中学校教員にとって懸念の割合が他項目に比べて低いのにに対し、小学校教員では他項目と比べて突出している。
 小学生と中学生が同一校舎で生活することでの、小学生の発達段階に応じた課題や日常生活を円滑・安全に送る上での課題を懸念している傾向にある。

ア、ウ、エ、ケが、他項目に比べて懸念する割合が高い。
 9年間同じ環境で過ごすことによる子どもたちの成長機会減少や人間関係等ストレスに関心がある傾向にある。



問11 小中一貫校や小中連携校の実施について、学校現場を運営する立場で期待していることや、懸念していること、あればよいと思う配慮やサポート（地域コーディネーターや支援員の配置など）など自由に意見をお聞かせください。（自由記述）
※小学校・中学校 両教職員対象

カテゴリ	内容	
統合前後の学校運営の改善に関すること	鴨部小学校	・統合前後の作業により、校務の時間が増えないようにしてほしい。 ・負担が大きい教務主任が学級担任をせず、教務の仕事に多く時間をさけるよう、教職員の人員増を期待したい。 ・校区が広がる中、はじめは地域コーディネーター一人では難しいかもしれないが、地域と学校を繋いでくださると学習支援につながる。 ・統合から数年間は児童の気持ちが落ち着きにくいことが懸念されるので、多めの支援員配置をお願いしたい。
	九和小学校	・新しい学校に、最初は九和小、鴨部小から各3人ずつ配置していただきたい。理由：①子ども達も知らない先生ばかりだと不安になる。②各小学校でやってきたこと、やってないこと、引き続き残していきたい活動は、もとの学校の先生でないとわからない。 ・全国的に統合事例のある学校を調査し、必要なもの・ことをあらかじめ把握し、準備しておきたい。 ・適切な人数の支援員配置 ・玉川地域の人・もの・ことを活かした学習を構築したいが、教職員は日常業務の負担過多であり、教育委員会からの指導や支援は期待しにくい。身近な教員OBではなく、専門的知見を持ったコーディネーターやアドバイザーを派遣してほしい。 ・小中一貫校や小中連携校の場合、養護教諭は何人配置になるのか。
	玉川中学校	・従来の支援員の配置は必要だが、コーディネーターの配置は必須ではない。学校の他と異なる魅力づくりに関して、従来の教育活動を見直し、玉川地域の復興に意欲ある人材育成及び教育活動が重要だ。
小中一貫・連携に期待する点	九和小学校	・9年間を通じた指導により生徒指導が安定する。教職員の柔軟な配置が可能になる。運動会などの行事が一本化でき、地域連携が円滑になる。 ・児童生徒の心情面の成長に互いに良い影響を与え、よりよい育ちにつながることを期待する。
	玉川中学校	・中学校を中心に玉川を盛り上げていく。玉川の良さを知り、大人になっても玉川に残りたいという生徒を育てていく。
小中一貫・連携で懸念する点	鴨部小学校	・中学校校舎は小学校低学年には使い辛く、危険もある。プールや水道など。
	九和小学校	・もともと小規模校であり、年下への優しさなどは育っている。過去、中学校入学を機に人間関係を再構築したい子や規律の保たれる新しい場所(中学校)で過ごしやすくなった子もあり、雰囲気の違いがある方がよいのではないかと考える。 ・学校の特色をどう捉え、環境や人的財産を活用していくのか。施設設備の改善や充実を小・中学校の両方でどう十分に進めるのか懸念する。 ・中学校のプールをそのまま小学生が使用することは危険(他県の事故) ・同じ校舎で学習することのメリットもあるが、デメリットも大きい。 ・遊具やプールなど、小学校基準で作らなければ危険が増える。校舎が古いとはいえ、数百メートル先に改築等不要の小学校専用の施設があるのに、不便を強いてまで同一校舎にする必要を感じない。
	玉川中学校	・人間関係の固定化を懸念する。現状、小学校から中学校の9年間の人間関係は固定化され、ストレスを感じている生徒がいることも事実である。一貫化や統合を図ることが必要な場合には、生徒が多様な人と関わる機会を奪うことがないようにしたい。

カテゴリ	内容	
小中一貫・連携で懸念する点	玉川中学校	・まずは施設設備が整備され、良いスタートが切れることが大切。通学の不便さを解消できる施策も必要。 ・小中連携に伴う様々な教職員負担増。 ・中学生が小学生から気持ちを切り替えられず幼さが残るのではないか。 ・小中合同での活動をする場合、他校種の教員免許状を取得していない教員が、免許を持っていない校種の児童生徒に指導を行うことになるのか懸念する。

問12 統合しても残したい貴校の良いところや、小学校同士の統合、玉川地区の学校の魅力化・特色化についてなど、今回の統廃合全般に対して、ご意見をお聞かせください。（自由記述）※小学校・中学校 両教職員対象

内容	
鴨部小学校	地域が学校を支える力が強く頼もしい。経験上、児童は互いに仲良くなれると予想される。新学校で、設備や人員が不利にならず円滑に学校運営を行えるかが最重要だ。通常業務と並行しての閉校・開校の準備はかなり教職員の負担が大きく、校舎を空ける側の学校はさらに負担である。開校後でないと決定できないことも多々ある。人員面でのサポートがあるとありがたい。
鴨部小学校	2校互いに残したい良さを持ち寄り、何度も話し合う必要がある。同時に、地域との連携事業についても同様に話し合いが必要である。
鴨部小学校	統廃合の作業負担が教職員にかかり、今の子どもたちへの指導や教育にしわ寄せが行かないよう計画していただきたい。
鴨部小学校	いきなりの統合で、子どもも教員も戸惑わないよう、今後、5年生以外も交流の機会があればいい。その際、徒歩だと30分かかるので、市がバスを出すなど、交流活動をしやすい環境づくりに力を貸していただきたい。
九和小学校	地域の方との交流を続けていきたい。統合で各校の行事を合わせることで、これまでのつながりが切れてしまうのではないかと心配する。一方で、違う刺激を受けられるよう、すり合わせが必要だ。小学校、中学校の違いは大きいので、節目や切れ目がある方が気持ちを新たに中学校に進学できるのではないかと。
九和小学校	万葉の森を活用した自然(虫、木、鳥など)を見つめ考える活動や、ふるさとふれあいウォーク、ゆうかり文集は、大人になっても玉川を思い出す活動だと感じる。地元を温かく思い出せる人作りが将来の玉川町の元気さに関わってくる。
九和小学校	九和小学校のキャラクターは残ればいいと思う。学校統合には、全く新しい学校文化をデザインし構築して行くという玉川の可能性が秘められているとも思う。
九和小学校	学校を支援してくださる人々との関係の維持。 自然豊かな環境を生かしたふるさとを愛する心情の育成。
九和小学校	玉川を誇りに思い、愛する心
九和小学校	なかよし班活動
九和小学校	統合しても、学年を超えた交流があればいいと思う。

内容	
九和 小学校	玉川の自然・歴史・文化を生かした体験学習と地域交流を行える教育課程が必要。従来通り個別支援を充実させ、実体験重視の教育環境を整えつつ、教育委員会や教職員がつくりたい学校像を具体的に議論する必要がある。
九和 小学校	学校の魅力化・特色化では児童生徒数の増加は望めないと思う。 特殊な事情がない限り、小学校入学時の児童・保護者が校区外通学は考えない。 また、小中一貫となった場合、途中からの転入はハードルが高いから。
玉川 中学校	穏やかな人柄、家庭・地域と学校の距離感が近いことなど、小規模校だからこそ、生徒を地域社会全体で見守っている雰囲気がある。今後も、人の温かさに触れる機会を維持し、地域に根付き、地域社会に開かれた学校であってほしいと感じる。
玉川 中学校	今後も、学年を超えた縦のつながりが自然に行われたい。 豊かな自然環境や地域文化の継承も大切。
玉川 中学校	玉川独自の行事への参加や運動会・文化祭での受け継がれてきたものを残すことは大切だと思う。
玉川 中学校	3校が現在取り組んでいる特色的な内容を明確化し、すり合わせていく必要がある。
玉川 中学校	地域の伝統文化の継承について、小中でバラバラに行っていることを整理したい。 また、今後の若者の起業精神の育成等は必須であるが、「そのための教育活動ができる学校をつくる」など目標を立て、10年先の教育活動のビジョンを持たなければ、感情論等に振り回されるなど、統合の判断をしづらくなると思う。
玉川 中学校	現場の教職員の過度な負担にならないことを前提に、玉川で育つ児童生徒の未来を明るくする施策の検討を、どうぞよろしくお願いする。